

スポーツリハビリテーションⅠ		実習	教授 川崎 一郎
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12371303

1. 授業のねらい・概要

スポーツリハビリテーションⅠでは、スポーツ傷害Ⅰで学んだ知識を実技で実践する。各傷害の評価法あるいは固定法、リハビリテーションなどの目的や意義を理解し実践することにより、座学で学んだ知識を深め、技術の習得を目指す。

2. 授業の進め方

グループ班を形成し、学生各々が術者や助手、患者などの役割となり、各外傷の評価法および治療法を実践し、授業を進行する。

3. 授業計画

1. 股関節軟部組織損傷の評価法 2. 股関節軟部組織損傷のリハビリテーション①（単径部痛症候群） 3. 股関節軟部組織損傷のリハビリテーション②（その他の股関節疾患） 4. 大腿部筋損傷の評価法と応急処置 5. 大腿部筋損傷のリハビリテーション①（ハムストリングスの肉はなれ） 6. 大腿部筋損傷のリハビリテーション②（大腿直筋の肉はなれおよび筋挫傷） 7. 膝関節靭帯損傷の評価法と応急処置 8. 膝関節靭帯損傷のリハビリテーション①（前十字靭帯損傷）	9. 膝関節靭帯損傷のリハビリテーション②（内側側副靭帯損傷） 10. 下腿部筋損傷およびスポーツ傷害の評価法と応急処置 11. 下腿部筋損傷およびスポーツ傷害のリハビリテーション 12. アキレス腱断裂の評価法・応急処置・固定法 13. アキレス腱断裂のリハビリテーション 14. 足関節捻挫の評価法・応急処置・固定法 15. 足関節捻挫のリハビリテーション
---	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各外傷の受傷機転や症状、治療法、合併症を毎授業で配布した資料を中心に学習しておくこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

各項目の要点をまとめて記述できるようになる。また、本講義で得た知識を通じて実技を実践できるようにする。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢（30%）、定期試験の結果（70%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

- ①柔道整復学・理論編改訂7版社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
- ②必要に応じて資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

- ①私語および携帯電話の使用、飲食、帽子の着用は禁止とする。
- ②実習着（ポロシャツ）を着用すること。

- ③アクセサリー（ピアス，指輪，ネックレス）ははずすこと。
- ④事前に実技で必要とするものを連絡するので必ず持参すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は接骨院における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。